

## 人事委員会議事録（第1675回）

### 1 開催日時

令和4年1月13日（木）10：00～11：20

### 2 開催場所

兵庫県人事委員会 審理室

### 3 会議に出席した者

委員長	松田直人
委員	鈴木尉久
委員	長尾真
事務局職員	西村嘉浩
	森本剛史
	吉川昭裕
	岡野揮代美
	任用課長
	給与課長
	任用課副課長兼給与課副課長

## 開 会

### 第1号議案

#### 議事録の承認を求める件

人事委員会議事録（第1674回）について、審議の結果、原案どおり承認した。

### 第2号議案

#### 社会人経験者採用試験最終合格者決定の件

任用課長が、標記試験の実施状況、合格基準及び合格発表日（1月14日）等を説明した後、同試験の合格者（案）を諮り、審議の結果、原案どおり決定した。

（委員）

社会人経験者試験の合格者は即戦力としての活躍が期待されるが、配属先は前職の経歴等を踏まえて決定されるのか。

（事務局）

全員というわけではないが、これまでの例では前職が情報通信系の企業での勤務歴がある者が関連部署に配属されるなど、一定の配慮はされている。

（委員）

本県の場合、受験対象を非正規雇用で働く者に限定していないが、他府県では、直近2年間は正規雇用でないといった要件を付けているところもある。来年度の見直しに向けては、そういった府県の状況も聞いて、就職氷河期世代の支援に効果があったのかチェックしていただきたい。

（委員）

就職氷河期対策という目的は重要だが、優秀な人材確保の観点からは、非正規雇用者に限らず広く門戸を開いておいてもよいのではないか。

## 報告事項 1

### 人事行政の運営等の状況

給与課長が、標記資料について、作成の趣旨及び主な内容を報告した。

(委員)

多岐に渡り非常に詳しい内容を記載しているが、県民の目線で見ると詳しすぎてかえって分かりにくい。

特殊勤務手当は、日額でこと細かく支給対象が設定されているが、誰がいつどの業務をしたかの確認など管理面が煩雑であり、事務経費を抑制する観点からは大括りで一律支給してもいいのではないか。

(委員)

職員の構成比が最も高い主査とはどんな役割をしているのか。

(事務局)

役職は与えられていないが、その所属グループの筆頭として、下位の職員の指導やグループ長の補佐をしつつ自身に分担された職務を遂行する役割を担っている。

## 報告事項 2

### 警察官採用試験（第2回）の実施結果

任用課長が、標記試験の実施結果を報告した。

## 報告事項 3

### 職員採用案内2022の作成

任用課長が、標記冊子の内容等を説明した。

(事務局)

ワークライフバランスに関する情報には育児休業などの取得率も掲載している。就職先を決定する際の判断要素の一つであり、最近は転職サイトでもこうした情報を掲載するのが一般的となっている。

(委員)

絵に描いた餅で実際に休めないというのでは困る。冊子は分かりやすくてよい内容に仕上がっていると思う。

閉 会